

2026 年 3 月期第 2 四半期 決算説明会 質疑応答

かどや製油株式会社

【開催日】 2025 年 11 月 11 日（木） 10:00～11:00

【出席者】 代表取締役社長 北川 淳一

執行役員コーポレート本部長 高野 純平

① かどや製油の一番の強みは何か

回答：

日米市場における「KADOYA ファン」がいっぱいいることが何よりも強みである。何故ファンでいてくれるか、当社としての分析は「167 年間の歴史に裏付けされた信頼や高い技術力」だと考えている。信頼を裏切ることなく、ファンの方と一緒に、社員一丸となって企業価値向上に邁進する。

② マーケティング投資に注力していると認識しているが、具体的に教えて欲しい

回答：

菜種油が 4 割使われている「調合ごま油」と、ごま油が 100%の「純正ごま油」の違いを知らない消費者が 75.9%もいる（自社調べ：2024 年 3 月消費者調査）。商品を選択いただくのは消費者の皆様ではあるが、事実を正しくご理解いただくべく、当社のごま油は「ごま油 100%」であるということを発信する取り組みを 1 つの柱としている。さらに、ごま油の新たな使い方について SNS 等を通じて積極的に発信する。最後に、ごま・ごま油のこと、また当社について皆様にさらに知っていただけるような体験の場の検討も行っている。

③ 株式の流動性を高めるための施策について

回答：

当社としては、個人のファン株主の方を増やしていきたい、またファン株主の方々により魅力を感じていただきたいと考えており、そのためのさまざまなオプションを検討している。株式単位の分割の検討や、より安定的な配当施策など、法令・取引所ルールとの整合性を踏まえながら、株主価値の最大化に向けた柔軟な対応を進めていこうと考えている。

④ 国内・海外の収益の開示が可能か。国内・海外の区分に応じた営業利益が非開示の理由はなにかあるか。

回答：

ごま油セグメントの営業利益の開示に関しては、従来の開示についての考えかたを現在も踏襲しているが、海外のプレゼンスが近年急激に高まっている中で、社内での開示の在り方について検討している最中である。従来は日本での販売が主であったが、アメリカ向け販売が伸長し、また海外に 100%子会社を

設立するにあたり、いただいたご意見を基に社内で検討させていただく。尚、当社の純正ごま油 200g は日本では 500 円前後であるが、アメリカのアジア系スーパーでは 7 ドル（約 1,050 円）前後で販売されている。

- ⑤ 油の原料確保及び将来の見通しについて。原材料のゴマは国内産でしょうか？ 今後の事業拡大に向け、原材料の供給体制には問題ありませんか？

回答：

原料の国産比率はほぼゼロで輸入に依存している。主な原料の生産地域と数量はアフリカ 250 万トン、アジア 200 万トン、中南米 40 万トンという状況。

ごま油を製造するにあたり、原料の安定調達は最重要経営課題であると認識している。直近 5 年で南米諸国での品種改良が進み、機械で収穫する大規模ごま栽培が増加し、生産量が拡大している。特にブラジルの農家の規模は大きく、安定した原料の確保等が可能になる。そのため、従来のアフリカからの調達に加え、南米からの調達拡大にも取り組んでいく。品質維持のための課題もあり、技術面も含め、鋭意取り組んでいる。

- ⑥ 円安による業績の影響

回答：

当社の為替リスクは、原料調達に伴う輸入為替と、海外販売に伴う輸出為替の 2 種類がある。

短期的には円安が輸出為替へのプラス効果があり、利益増加に寄与している。一方、輸入為替については、為替予約にて為替リスクヘッジをしているため、今期の業績にはマイナス効果が発生せず、全体では円安でプラスとなる構造になっている。

ただし、中長期的にみると、円安になると原料価格の上昇が起きる相関性があり、当社にとって必ずしも有利な状況になるわけではない。

- ⑦ 今後の海外展開

回答：

マザーマーケットとして位置付けている米国での需要の掘り起こしを最優先としている。現在購入いただいているのは、アジア系のごま油の味・風味をご存知の方であると認識している。今後は、醤油もそうであったように、非アジア系の方が普段召し上がっている料理にもごま油が合うということを知っていただくなど、需要の掘り起こしを考えたい。

また、米国の現地法人を中心に、小分けのものを提供するなど、きめ細やかな用途別対応も進めていく。米国以外の地域も含め、信頼のおけるパートナーと連携し、需要の掘り起こしを実施したい。

- ⑧ 自己資本比率や借入金等の有利子負債について

回答：

当社は無借金経営をポリシーにしているわけではない。成長投資については、財務健全性を毀損しない範囲内での有利子負債活用も含め、外部資金活用も考えている。

2019年に袖ヶ浦工場を約100億円で建設しているが、今後ごま油を世界に広めるため、海外での工場を建設し、現地のニーズに迅速に対応する体制を構築することも今後検討予定。

⑨ 株主優待は今後も継続するか

回答：

ファンベース経営の中で、個人株主の皆様によりファンになっていただく施策を積極的に考えている。優待に関しても重要な施策と考えており、さらに充実させるための議論を重ねている状況。

※ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆、修正を行っております。

以上